記事 045　　下呂へ行ってきました

村松憲一

岐阜県下呂市は車で何度も通ったことはあるのですが，寄り道したのは 2，3 度で，宿泊したのは初めてです。今回は車がないので JR 特急で行きました。下呂温泉は「なごやの大地を学ぶ会会報 no.103」で紹介したように三大名泉の一つに挙げられる温泉で，下呂市の東方にある湯ヶ峰（ゆがみね）火山をつくるデイサイト質溶岩が，温泉の熱源となっていると考えられています。そこで見られる岩石は下呂石（図 1）と呼ばれ，下呂ふるさと歴史記念館にも展示されています。矢じり（石鏃）や石槍、石匙などの石器の原材料として広く利用されました。



図 1　下呂石

下呂温泉の泉質の印象は「熱い」「ヌルヌル感がある」の 2 つです。現在，下呂の湯は，1 ヵ所にまとめて集中管理を行い，55℃に調整して各旅館に供給しているそうです(図 2)。主成分は Na^+ と Cl^- または HCO_3^- であって H_2S を含む pH9 以上のアルカリ性単純温泉です。「ヌルヌル（つるつる）感」の原因は，ナトリウムイオンや炭酸水素イオンなどを含むアルカリ性の炭酸水素ナトリウム（重曹成分）や炭酸ナトリウムです。河原にも泉源があり，現在は足湯となっています（図 3)。熱くて足を長く入れておくことはできませんでした。



図 2　下呂温泉湯本



図 3　足湯

温泉街の飛騨街道沿いには温泉博物館があります（図 4・図 5)。日本各地の温泉の歴史や文化などの紹介のほか，「温泉の科学」のコーナーでは日本各地の温泉の温泉堆積物が展示され，温泉の pH や塩分を調べるなどの体験コーナーあります。また温泉関係の書籍も多く閲覧できるようになっています。

宿泊したホテルの通路に岐阜県と富山県との県境付近から産出したと書かれた珪化木の化石が展示されていました（図 6）

飛騨川の川原には巨礫が多く見られます。下呂市は濃飛流紋岩類の分布の中心付近にあります（図 7）



図 4　　温泉博物館展示



図 5　温泉沈殿物



図 6　ホテル通路に置かれた珪化木



図 7　足湯付近の飛騨川川原の礫

20260925